

平成30年度 第1回 甲賀市環境審議会 議事摘録

開催日時 平成30年11月13日(火) 15:00~17:00

開催場所 甲賀市役所2階 201会議室

出席委員(敬称略)

竺文彦(会長)、中島仁史(委員)、小林晶子(委員)、石山利則(委員)、
水野修(委員)、小倉剛(委員)、高橋美香(委員)、明石達郎(委員)
8名

欠席委員(敬称略)

なし

事務局(敬称略)

岡根部長(市民環境部)、藤村次長(市民環境部)、中島課長(生活環境課)、
伊東課長補佐(生活環境課)、山本係長(生活環境課)、植西主査(生活環
境課) 6名

会議次第

- 1 市民憲章唱和
- 2 委嘱状の交付
- 3 審議事項
 - ① 甲賀市の環境概要について【資料1】
 - ② 第2次甲賀市環境基本計画にかかる事業について【資料2】
 - ③ 一般廃棄物処理基本計画について【資料3】
- 4 次回(第2回)審議会の開催について
日 時:平成31年2月か3月に開催
審議事項:第2次甲賀市環境基本計画にかかる平成31年度事業
について
- 5 その他

配布資料

- ・【資料1】甲賀市の環境概要(平成29年度版)
- ・【資料2】第2次甲賀市環境基本計画にかかる事業について(H29・H30)
- ・【資料3】一般廃棄物処理基本計画について

会議内容

○開会

1 市民憲章唱和

2 委嘱状交付

3 あいさつ（会長）

4 出席者紹介

委員紹介

事務局紹介

5 あいさつ（市民環境部長）

6 審議事項（これより進行は会長）

（委員）

- ・甲賀市の環境概要について、事務局の説明を求める。

（事務局）

- ・〔資料1「甲賀市の環境概要（平成29年度版）」に沿って説明〕

（委員）

- ・資料1について質問や提案はあるか。

（委員）

- ・可燃ごみ搬入量について、人口は合併当時から比べると減になっている。人口や世帯数をグラフに反映させてはどうか。
- ・河川の水質について、杣川水系の濁水発生について驚いた。甲賀市ではおおむね7割の農家が環境こだわり農産物に携わっている。関係機関と連携を取り、濁水を流さないようアピールしてはどうか。
- ・大気汚染について、自身も相談を受けたことがある。住まいの近隣に採石場があり、事業に伴い粉塵があがっているので粉塵規制について調べて欲しい。また、大気の放射能検査はしていないのか。

（事務局）

- ・市としては調べていない。

(委員)

- ・敦賀の原発が事故を起こした場合のことも考えてみてはどうか。

(事務局)

- ・粉塵については滋賀県に相談させてもらう。
- ・放射能については、市内に放射線を事業で扱う会社があり、そこで年2回放射能測定を行っている。敷地内や地域内で測定しており、大学教授や地域市民、市役所が同行している。その測定値が参考になるのではと思う。

(事務局)

- ・放射能については危機管理課でも動いているので、確認を行う。

(委員)

- ・放射能測定は県がやっているのでは。

(委員)

- ・国や県がリアルタイム測定し、ホームページで公開しているものがある。

(委員)

- ・PM2.5の測定も県がしていると思う。放射能も県レベルでしている。

(委員)

- ・マイクロプラスチックが魚に影響していること、その魚を食べた人体への影響が未知であることをテレビで知った。びわ湖への流入水になる河川であることを考えれば、食物連鎖等の関係で心配だ。

(委員)

- ・マイクロプラスチックは学会でも前から問題になっている。環境ホルモンについてもうやむやになった感じがあるが、個人的にはしっかりやらなければならない問題と思っている。
- ・市では答えるのは難しそうな問題ではある。

(事務局)

- ・市だけでは対応が難しいが、国レベルでプラスチックの流通を減らす等の対策が考えられる。現状としては適正に処分する事が大事だと考えている。

(委員)

・近隣自治体との境（国道1号線、朝国あたり。）にごみがたくさん捨てられており、市のイメージが悪くなると心配している。

(事務局)

・渋滞が発生する箇所ですらそういったことが起こりやすい。不法投棄禁止の看板等を立てる対策は取っているが、それでも減らない現状がある。道路管理者にも回収をお願いしているが、再度伝えていく。

(委員)

・分離帯での雑草もひどい。

(委員)

・関町のバイパスでもごみがひどかったが、今はほとんどない。一時期ごみ防止の警備員が立ったり、下り車線のコンビニでレジ袋の配布をやめてもらったりしたという話を聞いたことがある。

(委員)

・環境概要の水質について、上流下流では不明なので、地図でポイントしたものをつけてはどうか。水系の位置関係もわかりにくいと思う。

・市内で騒音の面的評価はしていないのか。

・自然環境という観点もほしい。レッドリストを取り上げてはどうか。

・大戸川の上流で全リンの値が高いが、発生源は何であるか。

(委員)

・上流は濃度が高いが、下流に行くにしたがって薄まってきているということではないか。発生源は詳しく調査しないとわからない。

・今の件について地図を示すことで解決できると思うがどうか。

(事務局)

・市のホームページでは調査地点を公開している。本日の資料も審議会後ホームページで公開している。

(委員)

・環境概要をホームページに公開する時に地図をつけて欲しい。

(事務局)

- ・検討する。

(委員)

- ・特に野洲川と杣川の位置関係をお願いする。

(委員)

- ・騒音についてはどうか。

(事務局)

- ・自動車騒音の面的評価について、路線を変えながら毎年している。それに関しては問題がある数値はでていない。工場や高速道路などの騒音苦情はある。

(委員)

- ・調査をしているのであれば、環境概要に掲載してはどうか。

(委員)

- ・自然環境についても掲載するほうがいいのではないか。

(事務局)

- ・自然環境については学芸員のいるこどもの森がメインでやっている現状もある。レッドデータは昨年度見直しをしているので、掲載を検討したい。

(委員)

- ・昔は普通にいた生き物が危機にあったりする現状もある。環境概要というのであれば、自然環境という切り口を入れてはどうかと思う。

(委員)

- ・環境概要で冊子を作っても良いくらいの規模の市だと思うので検討を。
- ・第2次甲賀市環境基本計画にかかる事業について、事務局の説明を求める。

(事務局)

- ・〔資料2「第2次甲賀市環境基本計画にかかる事業について（H29・H30）」に沿って説明〕

(委員)

- ・環境基本計画という甲賀市の大きな方針の上に各課の対策を報告し、29年度の完結して

いなかった部分の報告をしてもらった。30年度の中でも未定であったような箇所を修正している。

・ボリュームが大きいので短時間では難しいかもしれないが、修正箇所等を中心に質問や意見はあるか。

(委員)

・基本計画にかかる事業ということであるが、今年も大きな台風が来たり大雨が降ったことで災害が発生し、災害ごみが分別されず山積みになって、後で行政が困ったという話を聞いた。、一般廃棄物処理基本計画に表記があるが、もう少し詳細に作ってはどうか。

(委員)

・災害ごみについて基本計画としてはどう考えているか。

(事務局)

・今の基本計画の内容では、不燃物処理場への仮置きをするというレベルであるが、国から市町村に災害廃棄物処理基本計画を作るよう要請もある。来年の計画の際には、今よりボリュームをもたせた形で作成を考えている。

(委員)

・基本計画の中に災害の項目を入れ込むのか、別冊子にするのかは考える必要がある。

(事務局)

・災害廃棄物は一般廃棄物に該当するので、計画にもっと肉付けする必要があると感じている。別冊にすると危機管理課など関係機関との調整も必要となるため、次の段階で考えることかと思う。

(委員)

・他の市は別冊にしているのでは。

(事務局)

・位置づけの明記はないが、本来であれば別冊を作る必要があると感じている。

(委員)

・あちこちで災害が発生しているので、予算も含め検討して欲しい。

(委員)

・最後のページの各種団体との関連で、私はクリーンセンター監視員もしているが、不測の事態に備えて地域住民間で不平等がないように連絡や周知をきちんとしてほしい。

(委員)

- ・事務局で検討を。
- ・一般廃棄物処理基本計画について、事務局の説明を求める。

(事務局)

- ・〔資料3「一般廃棄物処理基本計画について」に沿って説明〕

(委員)

・なかなか難しい問題である。コストの削減と分別と処理の方法、一般家庭の手間、温暖化等の関係となるエネルギーの消費と生成について議論しなくてはならないが、審議会で話す時間は限られている。議論しきれなかったことはメール連絡等で事務局へ出して、まとめていく必要がある。

・生ごみの堆肥化は、非常に前向きな施策である。ごみ焼却施設は温暖化促進施設であるので、焼却は温暖化対策と逆行している。焼却施設を減らすことが必要。

・せっかく燃やすならそのエネルギーを利用しなくてはもったいない。ごみ処理ではなく発電所という発想にはどうか。民間業者などにプラントを作ってもらえば良い。ただ、法規制については問題となる。

・生ごみは9割が水分なので、焼却からははずすべき。堆肥化や発酵でのメタンガス生成も検討してはどうか。

- ・焼却場の建て替えはいつか。

(事務局)

- ・改修計画がまずあり、新規の建て替えはその後の話になる。

(委員)

・今後の焼却施設はエネルギーを作るべき。雑多なプラスチックは燃料化するほうが合理的。どう分別してどう処理していくかなど、次世代に対し、どれがよいのかご意見をいただきたい。

- ・本日はこの提案をしてもらったということで終わりにしたい。他にご意見は。

(委員)

- ・廃棄物の話で、炉の改修で15年くらい長寿命化するが、その後のことをもう考えておか

ないと間に合わない。アセスメントに10年かかるというのも聞くので、色んな方向で考えたほうが先々うまくいくのではないかと。最近の施設はとてもきれいである。

(委員)

- ・蛍光灯とLEDの交換のような感覚。

(委員)

- ・産業廃棄物と一般廃棄物について、企業は蛍光灯1本でも取り扱いも厳しいが一般とは差がある。ISO的な考え方を入れればどうか。情報を取るという視点では有効。
- ・資料2の予算についてだが、予算がないとやらないということか。

(事務局)

- ・やらないのではなくゼロ予算でやるということ。

(委員)

- ・植樹祭が決まった。普段の活動でペットボトルの分別をやっているが、ごみとして出すには洗わないといけない。洗うと余分に水を使ってしまうので、例えばペットボトルでお城を作るなど、人が来てくれるようなことをごみでできないかと考えている。
- ・子どもにはごみの教育をしているのに大人は捨てている現実。植樹祭開催も決まったので、まちをきれいにするためにリユース等をもっと啓発していきたい。車全てにごみ啓発のシールを貼るなど、PRが必要。事業主へ個々に働きかけは行っているが、ごみのない甲賀をどうやって目指していけるのか。

(委員)

- ・以上でよろしいか。次回開催時期について事務局よりお願いします。

(事務局)

- ・次回審議会は平成31年3月上旬ごろで開催。
- ・閉会あいさつ(中島委員)

○閉会